

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		運動療育型児童デイ クライムアップ桑津教室		公表日		R8年 3月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		定員に見合ったスペースを確保し、過密にならないよう配慮している。	必要に応じて見直し検討中。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		他事業所と協力し状況に応じた職員配置を行い、安全に配慮した支援体制を確保している。	適時状況を見ながら対応していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1	視覚的サポートやピクトグラムを導入し、バリアフリー対応も一部完了。	今後も改善を継続予定。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		清掃体制を整え、季節ごとのレイアウト変更を行い、子ども達の活動に合わせた快適な空間づくりを行っている。	左記の内容で継続していく	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用できる環境は概ね整っており、状況に応じた対応が行われています。	左記の内容で継続していく	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		PDCAサイクルを活用し、職員が目標設定と振り返りに積極的に参画している状況です。	さらなる活用が課題です。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者向け評価表を活用し、保護者の意向を把握し、業務改善に反映しています。	今後も定期的な意見収集を継続します。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員の意見を把握する機会を設け、業務改善に活用しています。今後も意見交換の機会を増やし、風通しの良い組織作りを推進します。	面談は定期的に行っているものなので、職員間の日々のコミュニケーションを大切にしてい	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		外部評価を実施できるように交渉しています。その評価結果を業務改善に反映しています。	今後も定期的な評価と見直しを行います。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		職員の資質向上のための研修機会は概ね確保されています。さらなるスキルアップを目指し、法人内外での研修機会拡充を図ります。	さらなるスキルアップを目指し、法人内外での研修機会拡充を図ります。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		支援プログラムは適切に作成・公表されています。	定期的に支援プログラムを見直し、常に理念や支援方針を念頭において支援を行っていく。また、新入社員への周知も徹底していく	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		アセスメントを通じて、こどもと保護者のニーズや課題を丁寧に分析し、個別に合わせた支援計画を作成しています。	成長や環境により変化するニーズや課題に都度対応しながら行っていく	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		支援計画は職員全員が情報を共有し、こどもの利益を最優先にチームで検討しています。	左記の内容を継続し、適切な支援計画の作成を行っていく	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		作成した支援計画は職員全員が理解・共有し、計画に沿った支援が行われています。	一人一人の特性、能力、発達段階を考慮した支援目標を立て、スモールステップで支援を行っていく	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		標準的なアセスメントツールと日々の観察を活用し、こどもの適応行動を適切に確認しています。	成長の変化について、保護者としてしっかり情報共有し、適切な支援が行えるようにしていく	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		ガイドラインに沿った項目を設定し、こども一人ひとりの状況に応じた具体的な支援内容を計画しています。	左記の内容を継続し、適切な支援計画の作成を行っていく	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		職員がチームで話し合いながら活動プログラムを計画し、質の高い支援につなげています。	全職員にアイデアを募る際、ねらいまでしっかり考えてもらいながら考案してもらう	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		こどもの興味や発達状況に応じて、プログラム内容を見直し、固定化を防ぐ工夫を行っています。	ニーズの変化に合わせて新しい活動を取り入れたり、既存の活動を変化させるために定期的な活動の見直しを行っていく	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		個別と集団のバランスを考慮し、こどもの成長や状態に応じた支援計画を柔軟に組み立てています。	成長に伴い変化する課題やニーズに沿って個別活動と集団活動を組み合わせる支援計画に反映させ、支援を行っていく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援開始前には職員同士で打合せを実施し、役割を明確にした上で、連携して支援に取り組んでいます。	朝礼の重要性を意識し、その日の保護者からの連絡や支援中に想定されることもしっかり伝達していく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援終了後には、職員同士で必ず打合せを行い、その日の支援の振り返りと気付きを共有しています。	その後の経過についても話し合い、更に改善や支援の質の向上に努める
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		日々の支援内容は記録し、検証・改善に活用しています。	支援の成果や課題、問題点等について常に話し合いながら適切な支援を行っていく
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的なモニタリングを通じて、児童発達支援計画の見直しを適切に実施しています。	左記の内容を継続し、適切な支援計画の作成を行っていく
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		サービス担当者会議や関係機関との会議には、こどもの状況を理解している職員が参加しています。	左記の内容で継続していく
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		地域の保健、医療、福祉、保育、教育など関係機関と連携し、支援体制を整えています。	左記の内容で継続していく
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		併行利用や移行支援の場面では、保育所や幼稚園、特別支援学校などと情報共有・相互理解に努めています。	左記の内容で継続していく
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		就学時には、小学校や特別支援学校と支援内容の情報共有と相互理解を図っています。	左記の内容で継続していく
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4		児童発達支援センターとの定期的な連携やスーパーバイズの機会が十分に確保されていません。	外部との連携体制の強化を行っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の子どもたちと活動する機会も不足しています。	こどもたちが社会的なつながりを持てるような交流の場を積極的に設ける。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		保護者と日頃からこどもの状況を共有し、共通理解を深めています。	左記の内容で継続していく
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	1	家族支援プログラムや研修等の情報提供を行い、家族の支援をしています。	積極的にプログラムや研修機会の整備と情報提供をより進めていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		運営規程や支援プログラム、利用者負担などは丁寧に説明しています。	報酬改定などで料金体系に変更があったり、運営規定の変更の際はその都度きちんと伝達、説明を行っていく
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		支援計画作成時には、こどもや保護者の意向を尊重し確認する機会を設けています。	左記の内容で継続し、満足度の向上に努めていく
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		支援内容について保護者に説明し、同意を得た上で支援を進めています。	左記の内容で継続し、修正等あれば同意を得られる支援計画の作成に努めていく
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		家族からの相談には適切に応じ、必要に応じて面談や助言を行っています。	左記の内容で継続し、安心して通所してもらえよう努めていく

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	1	現在、保護者同士やきょうだい同士の交流の場を設ける取り組みは実施できていません。	保護者のニーズを把握し、交流の機会や情報共有の場を積極的に検討していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		相談や申入れがあった際は、体制を整備し速やかに対応しています。	左記の内容で継続していく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		通信やSNS等を活用し、活動や行事の情報を保護者に発信しています。	SNSは見る人、見ない人がいるため、配布や連絡帳での情報発信を欠かさず行っていく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の取り扱いには十分に配慮しています。	左記の内容で継続していく
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		障害のある子どもや保護者への意思疎通・情報伝達に配慮しています。	左記の内容で継続しつつ、更に意思疎通や情報伝達のために分かりやすい教材等を探し、配慮に努めていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		1	子ども食堂を最近始め、地域住民を招いた行事を行っています。	今後も地域運営を行えるように随時図っていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		事故・緊急・防犯・感染症など各マニュアルを整備し、職員・家族へ周知、訓練も実施しています。	左記の内容で継続していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に避難や救出訓練を実施しています。	左記の内容で継続していく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		事前に服薬・予防接種・てんかん発作など子どもの健康状況を把握しています。	左記の内容で継続し、全職員への周知を徹底していく
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	4		食物アレルギーについては、医師の指示書に基づき適切に対応しています。	左記の内容で継続し、全職員への周知を徹底していく
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		安全計画を策定し、必要な研修や訓練を実施、安全管理の体制を整えています。	左記研修を定期的に行い、振り返りまで徹底することを継続し、安全管理に努めていく
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		家族へ安全計画の内容を周知し、連携して安全確保に努めています。	左記の内容を継続した上で、更に保護者の不安軽減のために必要な情報は周知していく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット事例は事業所内で共有し、再発防止策を検討・実施しています。	同様のヒヤリハットが起こっていることに対しては、対応策の見直しをしっかりと行っていく
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止のため、職員研修の機会を確保し適切に対応しています。	定期的に行うことで、全職員が研修参加できるようにし、また、繰り返し行うことで虐待への意識が希薄にならないよう努めていく	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		身体拘束については、事前に保護者へ説明し同意を得た上で計画に記載しています。	左記の内容で継続していく	